



通算第173号

1967~1968-7-19

函館北ロータリークラブ

第157回例会

例会場 拓銀駅前

例会日 毎週水曜日

12.30~13.30

当クラブの出席率が最近向上した事に就いて、他クラブの方々より賞められる様になりました事は誠に喜ばしい事です。以前私が属しました函館東R、Cの時、当時の富田会長も盛んに出席率について苦勞しておられました。私も当クラブの会長を勤めた時は、矢張り出席率に就いて心配は致しましたが、会員自体の意欲がなくば、恒久的には向上は望めないと考えましたので、特別の手段を採りませんでした。出席率の向上が、クラブ活動の重大なる要素であるとしても、立派な業績を挙げ得るとは限りません。現在函館R、C50%、函館東R、C35%、北R、C15%の負担率で他クラブの恩恵を受けて居ります。今後共に他クラブの協力を御願ひすると共に、我々も努力致したいと存じます。

出席報告

- 1、本日の状況 会員数35名 出席28名 欠席7名
- 2、前回の確定率 会員数35名 出席28名 他クラブ出席6名
合計34名 出席率 97、14%
- 3、6月の平均出席率 95.67%
(函館91.59% 函館東94.93%)

才350地区協議会報告 俣野次期会長

日時 1967年6月18日 9:30~18:00

場所 北海道自治会館

次期会長 ルーサーH・ホツジス

ロータリアンとしての、あなたの資格を効果的に、

- 1、ロータリーの活動に自ら進んで参加すること
- 2、あなたの職業に成功を収めることにより、指導力を発揮すること
- 3、あなたの地域社会や、国家に対し忠誠を捧げ、あらゆる機会に奉仕すること
- 4、他国の人々の問題によく通じこれが理解を深めること

小畑次期ガバナーより上記メッセージを中心としたお話があり、特に国際ロータリーの会合に出席し、欧米諸国を廻つて感じた事は、東南アジア及びその附近に対する国際奉仕事業は、日本ロータリーの責任であると痛感させられたとの言葉が特に印象深く感じました。

才350地区協議会報告 水上次期幹事

小畑ガバナー、エレクトの主催する研究討論会が2時間、午後は会長、幹事、会報委員、分区分代理の四部門にわかれて、私は幹事部門で継続バスターガバナー司会で約2時間、教育を受けました。懇親会も盛大であり、ロータリー楽団の演奏は素晴らしいと共に、ロータリアン同志の温かな友情を肌を感じる雰囲気は是非、会員が今後出来るだけ出席出来る様に切望致す次第です。

本日のプログラム
連絡船の機関部 青函連絡船機関長 宮崎米作氏

- 司会 俣野会長 齊唱 手に手つないで
- ゲスト 武内収太氏 (元函館市博物館長)
- ビジター 河村定勝君外9名 (函館) 田中祐治君外6名 (函館東)
- 幹事報告
 - 1、例会終了後理事会を行ないます。
 - 2、本夕6時より本年度一回のクラブアツェンブリーを行ないます。
 - 3、交換学生として渡米が予定されて居りました原百合子さんは、7月15日 出発されましたが、ロータリーの皆様に御礼の伝言がありました。
- ニコニコ箱
 - 1、若山会員 (函館R、C) 御寄附有難うございました。
- 卓話 中国陶磁器に就いて; 武内収太先生

憧憬と熱意を傾注して玉の美を採求した古代中国は文化の高い国で、特に陶磁器の美術的位置は世界に冠たるものがあります。昔より「小人玉を抱きて、罪あり、とか「玉音、とかの言葉がある様に、玉の美 陶器に求めたのは、春秋の時代所謂周の時代からで、中国史を繙く時、陶によつて政を知る、と言う程、陶磁器の消長は政治力が影響して居りました。

 - 1、後漢の時代 (今から2000年前) から隋の時代は、陶磁器の播種期で、うわぐすり、も余り使用されなかつた様で、青磁はありませんでした。
 - 2、唐時代 (西歴700年~900年) は首都洛陽を中心として文化の華が咲き中国民族が外部に溢れる様な勢で膨脹発展した時期の為、一体に陶器のデザインは、膨脹した感じ、ふくよかな感じのものが多く、うわぐすり、も所謂シルクロードを経て欧州の「灰度のものが輸入されて、製品も大分良質のものが生産されて参りました。
 - 3、宋時代 (南宋、北宋) は唐時代に引継いで学問が尊敬された時期で、陶磁器も美の極限をゆく様なシャープな感じのもの、玉に近い色彩、青磁等、作られました。現在正倉院にある国宝級の陶磁器はこの唐、宋時代に我國の

禁止。の立札が必要な程、または、地獄の罫たき、と言われ、罫の水をなくして、罫が破裂し尊い人命を失う等の労働災害が惹起すると言ひ惨事は最早、現在では昔物程程度になりました。

戦前の連絡船は大部分が空襲で損害を受け、現在新造船が大半であります。機関部も川崎重工又は三井造船等の近代造船技術の粋が集中して設備されて居り、3年前に竣工した津軽丸は当時は世間の注目を集めました、現在は当然な事になつて居ります。罫たき時代と異なり機関部人員も3分の1に減員されて、高度化される技術の習得に懸念であります、以前は1ヶ月に100件程度の機関部の故障がありました、現在は50件程度に減少して居ります。高度の技術習得と故障対策を何時、どの様に行なうかが機関長としては、肝腎であります、函館～青森間18.2ノットの運航で約20万円の燃料費を如何に節減するかと言ひ事も、重大な任務の一つであります。

現在青函トンネルが工事中で現在調査孔の段階で断層に達したと言ひ事ですが、トンネル開通後も各船は廃止されても、貨物船は残留するとの話です。戦後日本復興の一翼を狙つた船舶は今後共に発展する事と存じます。

「我は海の子、と海に慣れた私も、必づしも平坦な運航のみでなく、昭和20年3月才5舟函丸衝突の際は下船中、7月14日のグリーン製撃の時は、軽傷も受けず命拾ひ、B29型襲撃の際は下船中でした。昭和29年の洞爺丸の時は、才12舟函丸に乗船中でしたが、貨車を沢山積んで居た為、却つて安全度があり丸死に一生を得ました。誠に感慨無量なものを感じながら、今後共に元気で勤務致したいと思つて居る昨今であります。

会員の皆さんの中から御質問がりましたが、函館～青森間の運航時間3時間50分は、これ以上短縮出来ず、ディーゼルエンジンの騒音度はタービンより、高いですが、馬力の点で優れて居り致仕方ない事であります。

● 出席報告

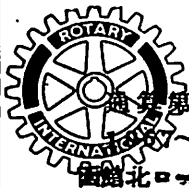
- | | | | |
|------------|----------|-----------|--------|
| 1、本日の状況 | 会員数35名 | 出席29名 | 欠席6名 |
| 2、前回の確定出席率 | 会員数35名 | 出席29名 | 欠席6名 |
| | 他クラブ出席3名 | 合計32名 | 91.43% |
| | 函館94.29% | 函館東91.67% | |

● 6月出席報告

- | | | | | |
|--------|------|-----|--------|------------|
| 才350地区 | 才26位 | 函館北 | 95.67% | (前月順位27位) |
| | 才29位 | 函館東 | 94.93% | (" " 29位) |
| | 才36位 | 函館 | 91.57% | (" " 39位) |

才1位 100%出席クラブ

網走、北見東、名寄、帯広北、留辺蘂、留萌



The Weekly Report of Hakodate North R.C.

第175号
1968-8-2
函館北ロータリークラブ

第159回例会

例会場 函館拓銀ビル
例会日 毎週水曜日
1230~1330

本日のプログラム

卓話 「拓本について」 青函船舶鉄道管理局
船務部長 吉沢幸雄氏

- 司会 俣野会長 ● 斉唱 奉仕の理想
- ビジター 竹田留治君外11名(函館) 登坂良作君外2名(函館東)
- 会長挨拶 長万部R、O仮クラブが8月中に出来る予定であります。
- 幹事報告
 1. 例会終了後理事会を行ないます(議題 新年度予算)
 2. 新年度会費未納者は至急納付願います。
 3. ロータリー手帖にミスプリントがあり本日正誤表が参りました。後日全会員に送つて来るそうです。
 4. 函館東R、Oより北R、Oとの境界線を示した地図を、いただきました。有難うございました。
- 市川親睦委員長報告
 1. 例会終了後委員会を行ないます。
 2. 他地区訪問の際はバナーを御利用願います。会では沢山用意してあります。「灯台のもと暗し」とか当クラブには、函館クラブと森クラブのバナーが未だありません。是非交換致したいと存じます。
- 会員卓話 「お中元 珍談」 会員 新善次君

日本の習慣として中元歳暮の贈答は現今の様を緊迫した世情のりちでも、相不変行われて居り、特に経済界に於いては過当競争的に華を競うとも申す位の風潮で、デパートからの発送される小包の数の多い事は、驚くべき程、此等の面の交際上支出は相当の額に達するものと存じます。

贈答品は中元より歳暮の方が遙かに盛んであり、歳暮に就いての珍談をお披露致します。

戦前昭和12~13年頃の事ですが、日本水産函館支社に初代支社長として赴任して来た西村氏は、学位を持ち専門学校の経営にも参与すると言ひ、学者的実業家で日水幹部でも特筆された方でありました。

此の方から聞いた話ですが、歳暮として美事を綺麗を一羽の雉子を或る人に